

What's up,

OITA!

(どげえかえ、ふるさと大分!)



世界で活躍する県人会員と留学生OB、大分県関係者の皆さま方に、大分の「今」をお伝えします。

《Vol.59》2018年1月発行

新春特別号 2018(平成30年)

バックナンバーはこちら <http://www.pref.oita.jp/soshiki/10140/whatsupoita.html>



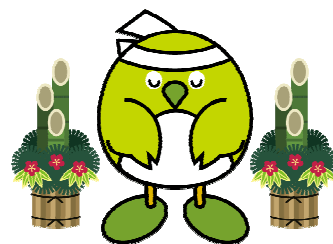
海外大分県関係の皆さまへ新春のご挨拶



企画振興部長
廣瀬 祐宏
(Yuhiro HIROSE)

新年明けましておめでとうございます。

昨年は、7月に九州北部豪雨、また9月には台風18号により県内各所で大きな被害を受けました。皆さまの応援を受け、県をあげて復旧・復興に全力をあげて取り組んでいます。皆さまの物心両面のご支援に、この場をお借りしてお礼申し上げます。



そのような中、大分県立美術館で開催された特別企画展「ジブリの大博覧会～ナウシカからマーニーまで」が過去最高の企画展来場者数を記録したことや、大分県外からの移住者数が上半期で451人となり、前年度比36%増となったことなど、嬉しい話題もたくさんありました。

中でも、もっとも注目すべきは、なんと言ってもラグビーワールドカップの試合日程が発表され、大分で決勝トーナメントを含む好カードの開催が決定したことです。世界の強豪国が大分でプレーするのは大変楽しみであるとともに、選手の皆様が存分に力を発揮してプレーできるように、また観戦に来られた方々に大分県の魅力に触れていただけるよう、本格的に準備を進めてまいります。

また、今年5月には世界の有名な温泉地のトップが集う「世界温泉地サミット」が、10月からは「国民文化祭」、「全国障害者芸術・文化祭」が開催されます。ビッグイベントが目白押しですので、大分県をあげて準備を進め、海外の皆さまに大分県の情報発信をしっかり行ってまいります。

故郷大分の発展のため、皆さま方にはなお一層のお力添えを賜いますようお願い申し上げます。

結びに、本年が皆さまにとって素晴らしい年になるとともに、一層のご健勝とご活躍を祈念申し上げます。新春のごあいさつといたします。



【↑昨年11月、英国ロンドンにてPRを行いました】

2017の県政10大ニュース



1

相次ぐ自然災害～災害に強い社会づくりと県土の強靱化～

- 平成29年7月九州北部豪雨、平成29年9月台風第18号、豊後大野市綿田地区の大規模地すべり等、自然災害が多発 ○天皇皇后両陛下が九州北部豪雨被災地の日田市を御見舞のため行幸啓
- 「復旧・復興推進計画」の策定、迅速着実な実行

(県広報広聴課HP)
<http://www.pref.oita.jp/soshiki/10400/jyudainews.html>

2

ラグビーワールドカップ2019 世界強豪国が大分へ勢揃い

- プール戦では、世界ランキング上位国・ニュージーランド、オーストラリア、ウェールズ、フィジーなどによる3試合が開催
- 東京、横浜と並び、大分で決勝トーナメント(準々決勝)2試合が開催
- ジャパンラグビートップリーグ大分開催、大銀ドームに18,279人が集結
- ラグビーワールドカップ2019 2年前イベント「大分ラグビーファンゾーン2017」開催

3

「おおいた豊後牛」日本一の栄冠へ～「The・おおいた」ブランド大躍進～

- 第11回全国和牛能力共進会(宮城県仙台市)種牛の部で内閣総理大臣賞受賞、全ての出品区で優等賞獲得
- スイーツみたいなストロベリー県産オリジナルいちご「ベリーツ」お披露目 初競り価格3万5千円(1パック)
- 県オリジナル焼酎用麦「トヨノホン」利用拡大、県内12蔵元が新商品を販売

4

企業誘致の加速と "OITA 4. 0. のスタート

- 過去最大の企業誘致件数51件
- IoT推進ラボが農林水産業、医療福祉、観光など様々な分野の22件のプロジェクトを認定
- 西日本最大のドローン産業の集積に向け大分県ドローン協議会設立(会員200超)
- 独立行政法人情報処理推進機構(IPA)との連携協定締結(都道府県レベルでは初)

5

小中ともに学力が九州トップレベルへ～子どもたちの成長と活躍～

- 小学校の学力は、全ての教科・区分で全国平均を上回り過去最高、九州トップレベルを維持
- 中学校の学力は、平均正答率の合計値が調査開始以来、初めて全国平均を上回り過去最高、九州トップレベルを達成

6

おおいた働き方改革実行元年～県内就職者18,500人を目指して～

- 「おおいた働き方改革」共同宣言(総労働時間削減など4つの目標設定)
- 今後3年以内に県内就職者数18,500人を確保
 - ・福岡対策を大幅に強化するなど、若者の県内就職を拡大
 - ・女性の活躍促進に向け、「在宅ワーク」推進に着手
 - ・シニア世代向け就職面談会を初開催(310人参加)

7

祖母・傾・大崩ユネスコエコパーク登録決定～世界に認められた自然と人との共生～

- 第29回ユネスコMAB計画国際調整理事会において登録決定
- 大分県オフィシャルアーティストは「DRUM TAO」

8

地方創生・人口ビジョンの取組進む～合計特殊出生率22年ぶりに1.6台回復移住者数も過去最高～

- 平成28年の合計特殊出生率は1.65と22年ぶりの1.6台に回復 全国7位へと躍進、上昇幅0.06は全国一
- 平成28年度の移住者数は過去最高768人、平成29年度上半期は451人となり前年度比36%増を達成
- 平成28年度の農林水産業の新規就業者数が過去最高の378人

9

RORO船・LCC相次ぐ増便、デイリー化～「九州の東の玄関口」拠点化進む～

- 東京港～大分港間のRORO船が2便増便、さらに来年3月からは大分港～清水港間が3便増便され、九州最多の11便体制へ
- ティーウェイ航空の大分～ソウル便が増便、週6便から毎日運航へ
- 大分県東九州新幹線整備推進期成会シンポジウム開催
- 大分川河口部で約半世紀ぶりに橋梁新設「宗麟大橋」 庄の原佐野線、国道197号「リボン197」等の道路整備促進

10

「おおいた大茶会」県民総参加で取組広がる～芸術・文化の振興～

- 国民文化祭、全国障害者芸術・文化祭「おおいた大茶会」1年前イベントに、期間中(10/1～12/5)約45,000人参加、プレイベントも県内55カ所で開催
- 県立美術館特別企画展「ジブリの大博覧会」が県内展覧会来場者数の新記録(194,564人)を樹立(51年ぶり更新)

ベトナムの大使館等主催レセプションでPRを行いました

12月12日にベトナムハノイのシェラトンホテルハノイを会場として開催された、日本大使館等主催天皇誕生日祝賀レセプションに大分県ブースを出展し、観光や県産品のPRを行いました。

大分県がブース出展するのは今回で2回目となりますが、既にベトナムで商品展開している萱嶋酒造さんや、今後のベトナム展開を検討されている酒蔵さんのご協力で、県産酒・焼酎・梅酒12銘柄が揃いました。

また、通訳としてAPUの元ベトナム人留学生にお手伝いいただき、県産酒の試飲対応や観光PRを実施しました。

当県以外にも福井県、岐阜県、茨城県、サッポロなどがブース出展していましたが、あいにくの雨天でハノイでも肌寒い程の気温の中、身体が暖まると県産酒、焼酎は好評で「値段はいくらくらいか?」「この酒はベトナムでも購入できるのか?」「買って帰りたい」などのお声を頂きました。



駐日イギリス総領事が来県されました

12月6日に、駐日英国総領事館のセーラ・ウテン総領事が来県され、知事を表敬訪問しました。ウテン総領事は、表敬訪問の前にラグビーワールドカップ2019の試合会場となる大分銀行ドームを視察され、広瀬知事に「非常に素晴らしいスタジアムで、大分県の皆さんがワールドカップに向けてしっかりと準備に取り組んでいることがよく分かった。多くの外国人が訪れても大分県は対応できる」と感想を述べられました。その後、県内の経済等について知事と意見を交換されました。



国際理解講座(フィジー)が実施されました

12月9日にiichiko総合文化センターの映像小ホールで、大分県ラグビーワールドカップ2019推進室・JICA九州と連携して、国際理解講座【フィジー編】を開講しました。これは11月にラグビーW杯2019の試合日程が決定したことから、県内のW杯機運を盛り上げるべく、本県開催国の一つであるフィジーをテーマにしたものです。

在別府フィジー共和国名誉領事の河村眞實氏、JICAシニアボランティアフィジー経験者の堤孝幸氏、そして立命館アジア太平洋大学のフィジー出身学生であるEric氏とSENIBULU氏を講師に迎え、フィジーでの生活や文化についての紹介、報告がありました。あまり馴染みのない国だけに、聴講者は皆一様に話に聞き入っていました。

【おおいた国際交流プラザ】



草の根交流プログラム in 日田

12月9日～10日、県内大学等で学ぶ外国人留学生と、地域の家庭とが、交流会やホームステイを通じて交流する草の根交流プログラムが、日田市内で実施されました。

交流会では、留学生がホストファミリーと一緒に日田下駄の鼻緒すげを体験。自分で作った日田下駄をお土産にもらい、参加した留学生は大変喜んでいました。

ホームステイでは、家族と夜遅くまで話し込んだり、連絡先を交換するなど、親睦を深めました。

プログラムに参加した留学生からは、「日本で初めてのホームステイで、とても楽しかった」「また遊びにきたい」といった感想が聞かれました。



第4回大分県スタディツアーを実施しました

12月2日に、大分県私費外国人留学生奨学生等を対象とした「大分県スタディツアー」が実施されました。今年度4回目となる今回は、酒蔵巡り(二階堂酒造、萱島酒造)と杵築の城下町散策を行いました。

留学生たちは、お酒造りの行程説明を非常に興味深く聞いていました。また、大正初期に建てられた趣ある酒蔵に感銘を受けている様子でした。

ツアー終了後は、それぞれがツアーで感じた大分の魅力をSNSで世界に発信してもらいました。



←お酒造りの行程説明に興味津々な留学生たち

海外大分県人会交流掲示板

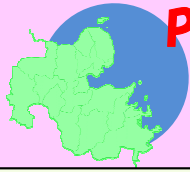


ロサンゼルス大分県人会の會田裕二会長様より、年末の県人会イベントのご報告をいただきました！

12月15日の金曜日6時から10時まで、ロサンゼルス・トーランス市のBridge USA内のカラオケルームにて、南加大分県人会の忘年カラオケ大会が開催されました。翌日から2日間の合同セミナーの為に到着したばかりの立命館アジア太平洋大学の事務局次長のポシリアス雅子様、ワンヤマ・ユージーン様それに岩田中学/高校の柳井校長様も飛び入り参加され、大いに盛り上がった4時間でした。

なお敢闘賞3名には現地のスーパーマーケットの商品券が手渡されました。





Pick Up! 大分の「今」

県内の出来事（12月）

News 【12月6日（水）】県産イチゴ新品種「ベリーツ」お披露目

アミュプラザおおいたで6日、県産イチゴの新品種「ベリーツ」のお披露目会がありました。「スイーツのようなストロベリー」が名前の由来で、「ゆふおとめ（大分3号）」と「かおり野」をかけ合わせ、8年の月日をかけて開発された新品種で、鮮やかな赤色と高い糖度が特長です。お披露目会には広瀬知事をはじめ関係者ら約200名が参加しました。

News 【12月10日（日）】豊後二見ヶ浦の大しめ縄 張り替え

県内有数の初日の出スポットとして知られる佐伯市上浦の豊後二見ヶ浦で10日、今年で49回目となる大しめ縄の張り替えがありました。地元住民に加え、旧町時代から交流を続ける竹田市荻町の住民ら総勢約400人が力を合わせ、長さ64メートル、重さ2トン、最大直径75センチの大しめ縄を完成させました。

News 【12月20日（水）】フェンシングのサーブル日本代表が大分市でキャンプへ

フェンシングのサーブル日本代表が2020年東京五輪の事前キャンプを大分市で実施することを決め、日本フェンシング協会、県協会、県、大分市は20日に協定を交わしました。東京五輪関連で、県内がキャンプ地に決まったのは初めてのことです。

※国際政策課にて新聞等を元に作成

県内で様々なクリスマスイベントが開催されました



大分日米協会

12月7日に、大分日米協会のクリスマスの集いが開催され、会員同士や県内の国際交流員等との交流が行われました。

パーティーの始めには、在福岡米国領事館からバネッサ・善治領事が挨拶。ハガティ大使のビデオメッセージも披露されました。また、今年8月の協会設立以降の活動について報告も行われました。



大分県芸術文化スポーツ振興財団

12月15日（金）18時から、iichiko総合文化センターで、初めての「おとなのクリスマス♡パーティ」を実施しました。これは、大分県芸術文化ゾーン創造プロジェクト実行委員会主催「ハートオブクリスマス2017」の一環として、国際交流プラザとの連携事業です。

大分県内で活躍する国際交流員や外国語指導助手（ALT）の人たちと一般応募の県民が、クイズやゲームを楽しみながら交流の輪を広げようとするもので、パーティー終了後には、メールアドレスの交換や映画を一緒に見に行く約束など参加者相互の国際交流が深まりました。



From our Reporters



県の国際交流員等が、旬なOITA情報をお届けします。



シェリダン・ミキシック
(Sheridan McKisick)
県国際交流員
米国
pu1014001@pref.oita.jp

12月3日曜日に、豊後高田の「大たいまつ」という祭りに行きました。他の祭りに比べたら、似ているところが多いと思います。人が多かったし屋台はおいしいものを売っていたしパフォーマンスもあったので、他の祭りに比べても、似ているところが多いと思います。しかし、他の祭りにはない、珍しいこともありました。周りの橋から射手は火矢を放ちました。放った理由は分かりませんでした。火は夜空に輝いてとてもきれいでした。祭りの最後に御神輿がありました。面白いと思ったのは、神輿を担ぐ人は道を歩かず、神輿を担ぎながら裸で寒い川を渡りました。当日はすごく寒くてとても大変だと思ったのに神輿を担ぐ人々は我慢していました。



金 眞雅
(Kim Jina)
県国際交流員
韓国
pu101502@pref.oita.jp

先日、県庁内で企画振興部の職員を対象に韓国の文化を紹介する講座を行いました。県内の学校へ行って韓国を紹介する出前講座はしたことありましたが、県庁職員の前でするのは初めてでとても緊張していました。

主に私の出身地のこと、韓国料理や食文化などを紹介し、それにまつわるクイズを出しました。似ているようで違う韓国のことを知ることで、少しでも韓国に興味を持っていたら嬉しそうです。発表は無事に終わりましたが、最後、参加者からの質問に上手く答えられなかったのもありましたので、改めて私も韓国についてもっと勉強しなきゃと思いました。

日本と韓国の架け橋となることを目指している国際交流員として、これからもっとこのような機会が増えればと思います。



張 鵬
(Zhang Peng)
県国際交流員
中国
Pu1014006@pref.oita.jp

12月になってから、大分市内ではクリスマスの気分が溢れて、駅前のイルミネーションだけでなく、イチゴの新品種の発表や商店街に大きなクリスマスツリーの設置など様々なイベントが展開しています。その中で、国際交流プラザが共催した日本文化体験イベントがnichiko総合文化センターで開催されました。

今回の文化体験イベントは県内JETプログラム研修に合わせて開催しましたので、県内にいる国際交流員(CIR)をはじめ、各市町村に派遣されている外国語指導助手(ALT)が大分市に集合し、日本の伝統文化である「書道」・「茶道」・「着付け」を実体験させていただきました。今までの学校訪問などで、日本文化体験活動として何度も拝見しましたが、自分で体験するのは初めてでした。一番興味深いのは「茶道」でした。一見面倒な儀式なのですが、おもてなしの気持ちでお茶を丁寧にたてることが、まさに「一期一会」という日本精神の魂の伝達だと思います。



日本文化体験「茶道」

～編集後記～

2017年は大分県と海外との交流がより一層進んだ年でした。世界各国の地方大使や国会議員の方など大勢の方々が大分県を訪れ、県からもアジア始めヨーロッパ、アメリカなどを訪問し交流を深めることができました。これまで行われてきた国際交流をベースに、さらに深く広く交流の環を広げることで、活力のある大分づくりにつなげていきたいと考えています。2018年は世界温泉地サミットやブラジル大分県人会の65周年式典など県内・海外での国際イベントも予定されています。引き続き「What's up, OITA!」などでも紹介していきたいと思っていますので、本年もよろしくお祈りします。

(国際政策課長 徳野 満)

話題提供のお願い!

県人会の活動(懇親会等)や留学生OBの近況など、世界中の大分県関係者に紹介したい話題をお寄せください!

(様式は任意です)

【記事提供/お問い合わせ先】国際政策課 担当:小野

【Mail】 a10140@pref.oita.lg.jp

バックナンバーはこちら

<http://www.pref.oita.jp/soshiki/10140/whatsupoita.html>